



今知っておきたいジカウイルス感染症

今夏ブラジルで開催されるオリンピック、パリンピックに合わせて南米への旅行を企画する人も多いのでは？心配なのは、世界保健機関（WHO）が「国際的な懸念に対する公衆衛生上の緊急事態」を宣言したジカ熱です。どんな病気で何に注意をすればいいのかを、渡航医学センター西新橋クリニックの大越裕文院長に伺いました。

●ジカ熱の感染経路は？

ジカ熱（正式名称はジカウイルス感染症）は、蚊によって媒介されるウイルス感染症です。病気の原因であるウイルスが1947年にウガンダのZikaforestのアカゲザルから分離されたことに由来する名前です。

媒介する蚊は、ネッタイシマカおよびヒトスジシマカです。デング熱やチクングニア熱を媒介する蚊と同じです。頻度は少ないものの、性行為や輸血から感染することが知られています。

またブラジルの一部地域では黄熱の心配もありますが、同じ蚊が媒介します。

●感染が懸念される国・地域・季節

媒介する蚊の生息地域で、流行する危険があります。今まで、アフリカ、中央南アメリカ、アジア太平洋地域で発生が報告されており、近年は特に中南米及びその周辺地域で流行しています。

夏よりも蚊の数は少なくなると思いますが、オリンピックの時期でも十

分感染する危険があります。

●軽症が多いが、難病の可能性も

ジカ熱に感染しても、8割の人は無症状です。潜伏期間は2〜7日（〜12日）で、発症すると、発熱、頭痛、眼球結膜充血、皮疹、関節痛、筋肉痛などが出現しますが、症状は軽く、2〜7日続いた後に治ることが多いため、特別な治療は必要ありません。感染しても症状が現れないことも多く、発症しても、ほとんどの場合は後遺症なく治癒します。

しかし手足に力が入らなくなる、難病の「ギランバレー症候群」を発症するケースも報告されています。さらに妊婦は要注意です。

●妊娠中の人は要注意

科学的に証明はされていませんが、ジカ熱流行地に小頭症の発生が増加していることから、妊娠中にジカ熱に罹患すると小頭症の子供が生まれる可能性が示唆されています。

小頭症になると、赤ちゃんの脳や頭蓋骨が異常に小さくなり、結果として脳にさまざまな程度の損傷が生じます。妊娠中の方や妊娠を予定されている方は、渡航先のジカ熱流行状況を必ず確認してください。

●防蚊対策が重要

旅行中、外出の際には長袖、長ズボンの着用で露出を少なくし、露出部分と衣服に昆虫忌避剤（虫除けスプレー等）を2〜3時間おきに塗布しましょう。昆虫忌避剤は、

ディート（DEET）やピカリジン（Picaridin）等の有効成分のうちの一つを含むものを選びます。有効成分の濃度が高いほど、蚊の吸血に対する効果が持続します。

室内では、電気蚊取り器、蚊取り線香や殺虫剤等を使いましょう。規則正しい生活と十分な睡眠、栄養をとることで抵抗力をつけることも大切です。

●旅行前と帰国後も万全の注意

2016年2月23日現在、外務省の感染症危険情報（中南米等におけるジカウイルス感染症の流行）は、「レベル1…十分注意して下さい」が発令され、「妊婦及び妊娠予定の方は、旅行国・地域への渡航滞在を可能な限りお控え下さい」との注意が出ています。

渡航前には下記ホームページで十分な情報収集をしましょう。

◎外務省海外安全ホームページ
<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

◎FORIH <http://www.forth.go.jp/topics/fragment.html>

◎厚労省 <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109881.html>

またジカ熱が疑われる症状が出た時には、直ちに専門医師の診断を受けることが大切です。

◎日本感染症学会 蚊媒介感染症専門医療機関

http://www.kansensho.or.jp/mosquito/medical_list.html

挑戦の数だけ、 保険がある。

To Be a Good Company



東京海上日動

